

小規模多機能型居宅介護「サービス評価」 総括表

評価日 令和5年 1 月 19日 記載日 令和5年 3月 17日

法人名	特定非営利活動法人 パートナー	代表者	渡辺 菜美	法人・ 事業所 の特徴	事業所理念を「お年寄り一人ひとりの思いや願いを大切にします。」「昔からこの地で活躍されてきた地域のお年寄りを住み慣れたこの地で未永く安心して暮らせるように支えたい」と掲げ、当施設運営だけでなく地域福祉の拠点を目指している。
事業所名	小規模多機能ホーム うらら	管理者	渡辺 菜美		

出席者	市町村職員	知見を有する もの	地域住民・地 域団体	利用者	利用者家族	地域包括支援セ ンター	近隣事業所	事業所職員	その他	合計
	0人	1人	7人	0人	1人	1人	1人	5人	0人	12人

項目	前回の改善計画	前回の改善計画に対する取組み・結果	意見	今回の改善計画
A. 事業所自己評価の 確認	1、理念の実現と課題解決をPDCAを意識して成功例を積み上げ、スタッフ間の共有できる。そして、介護者家族、地域方、同業施設間で学びの機会を持ちたい。	1、取り組んだ困難ケースの成功事例の事例発表を行った。(県の計画作成者研修会、全国協議会主催、東海・北陸ブロック事例発表会)介護者家族、地域方、同業施設間で学びの機会にまでは至らなかった。	<ul style="list-style-type: none"> ・今後ますます認知症に関する学習が必要だ。以前にもお願いしていたが講師として来てほしい。 ・(かたかご)新しい地域評価アンケートが分かりやすく良いが、総括表が従来のままだと転記する時になお大変な作業ではないか？ ・大変詳しく記載されており、よく話し合っ目標を立てて業務にあたられていることが分かります 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域評価会を施設長中心に回すのではなく、スタッフにも企画、報告、まとめまで参加して、事業所、地域評価を自分事として捉える。 ・今回は事業所評価で掲げた9項目の課題を載せ、次回はその課題の達成度を報告するようにする。(試行錯誤) 1、初期支援(初めのかかわり) 初期支援の大切さについて学習会を実施しどんな気配りが必要かをマニュアル化(誰でもできるように)する。 2、「～したい」の実現 ・会議の都度、ケース検討を行い、目標をもって普段の業務に取り組む。

<p>A. 事業所自己評価の確認</p>	<p>2. 地域評価会を施設長中心に回すのではなく、スタッフにも企画、報告、まとめまで参加して、事業所評価、地域評価を自分事として捉える。</p>	<p>2.「スタッフにも発表の場を！」と意見をいただいていたのに、すっかり忘れて今日に至りました。次年は早めに(半年前に)スタッフに依頼してぜひ発表してもらいます。</p>	<p>・できている点、できていない点に沿った課題になっていないので分かりにくい。書式に沿った書き方を求める。</p> <p>→施設長回答;今年是指向を変えて様式は同じだが職員1人1テーマを受け持ち、それについて深く考えるという方法にしてみた。書き方については担当者に任せていたので書式に沿っていないところが多々あった。「きちんと書くことよりも思いついたことを、欄に関係なく、なんでも書いていい」と言ってあった。私としてはスタッフの生の声を知れて良かったと思っている。委員のみなさんにも熱意が伝わればと思って、清書することなく、そのメモ書きをそのままコピーしたものを配布したので、とても読みにくいものになった。次回はもっと分かりやすいようにしたい。</p>	<p>・ポジティブな表現をしたワクワクプランを、いつ、どんな時に、誰が、何のためにやるのか明文化し他人事にせず、全員で取り組む。</p> <p>3、日常生活の支援 10個の情報を記載した、うららオリジナルひもときシートを作り、スタッフの全員で情報を共有し本人の状況にあったサービスを即時的に提供できる。</p> <p>4、地域での暮らしの支援 社会資源を把握し、周知、活用を図り、運営推進会議で紹介する。</p> <p>5、多機能性ある柔軟な支援 『訪問に強い事情所になる』柔軟な支援を本人のニーズが実現できるよう支援を行う。</p> <p>6、連携・協働 ボランティア委員会を立ち上げ、企画を社協や学校、近くのNPO団体に提案・参加してもらう。</p> <p>7、運営 ・パートナーのホームページを活用してPR。 ・登録20名にして経営を安定させ、ケアの質を落とさない。</p> <p>8、質を向上するための取り組み ・うららをよくするために何ができるかを、ひとりがひとつの目標を挙げ実行する。 ・引継ぎ時にヒヤリハットタイムを設け、リアルタイムに対策を講じる。</p> <p>9、人権・プライバシー ・人権に関わる問題(例 身体拘束など)を解決していく過程(PDCA)を成功事例として記録を残し、発表する。</p>
----------------------	---	--	---	--

<p>B. 事業所のしつらえ・環境</p>	<p>1、スタッフ同士の話声が雑音になっていないか気をつける。</p> <p>2、玄関の施錠が閉じ込め目的にならないように気をつける。 玄関には「コロナ対策で施錠をしています」、内玄関には「鍵をかけています。外に出る時はスタッフにお声かけ下さい。」とプレートをかけ、鍵かけしている時間、しない時間をメリハリをつける。</p> <p>3、ZOOM を利用した研修、スタッフ会議を実現。</p> <p>4、動画を利用してカラオケの日(土)を楽しむ。</p>	<p>1、雑音に関する研修を行った。気を付けているつもりだが、まだ注意が薄れているときがある。</p> <p>2、原則、鍵かけはしない方針だが、人手のない時は玄関に出るホール側に施錠し案内のプレートをかけている。</p> <p>3、施行できている。ホワイトボードを活用した分かりやすい会議を心がけている</p> <p>4、施行できている。カラオケの得意な短期利用者さんが病気でお休みになり淋しい。</p>	<p>・職員の方々の表情や声いつも明るく、楽しい雰囲気利用者さんが過ごしておられるのが分かります。</p> <p>・「シーツ交換の頻度は?」「エアコンの設定温度は?」「換気の頻度は?」など具体的な質問があり、返答する形でより理解された。</p> <p>・推進会議で利用者の部屋の前を部外者が通ってくるとき見られたくない人もいるのではないか出入口を別にしたらどうか? コロナに関して皮膚感覚が鈍ってきているのでは? 推進会議のこの部屋も手狭なので会場を変えることも考えたらどうか? →施設長回答;うらの日ごろの様子を見てほしくて敢えて部屋の前を通ってもらっている。うららでコロナ流行していた時には感染ゾーンと出入口を別にしていた。利用者さんの中には外部の方が訪ねて来られるのを楽しみにしている方もいる。今後もプライバシーには注意しながらも、この場所でこのやり方でいくつもりです。地域に開かれた施設とはどんな施設なのか? 委員の皆さんと一緒に模索したい。</p>	<p>1 居心地のいい空間作り。生活感や季節を感じられる工夫。 (例) 壁の装飾、お花見などのお出かけ、旬の食べ物、季節の行事など。</p> <p>2、コロナが落ち着いてきて、今年こそ利用者さんが地域の一員と実感できるような支援</p>
-----------------------	--	--	---	--

<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">C. 事業所と地域のかかわり</p>	<p>1 インターネットの活用で遠方の面会を可能にする。(再挑戦)</p> <p>2 オレンジカフェに家族と利用者さんを招待して水入らずの時間を作る。また、介護者家族同士の交流の場にする。</p> <p>3 社協にボランティアさんの仲介を再度依頼してきてもらう。</p> <p>4 子供ボランティアは今年の倍にする。(数字目標)</p>	<p>1 コロナが落ち着いてきて通常の面会ができるようになったので、インターネットでの面会はゼロ。いつでも利用できる環境にはしている。</p> <p>2 うららの利用者さんの介護者にカフェのチケットをプレゼントして、一組の利用があった。</p> <p>3 社協への依頼はできなかった。傾聴ボラさんは戻ってきてくれている。</p> <p>4 子供ボラは数もメンバーも昨年と一緒だった。</p>	<p>(施設長より)利用者以外のご近所の心配事も相談はいつでもお受けするつもりで、オレンジカフェすまいるで『介護相談承ります』というのぼりを作って、毎回掲げています。もし、相談があれば「入善町の福祉のしおり」を準備して、リーダー(介護福祉士)がいつでも受け付けています。</p> <p>(元医療関係者)何か困りごとや相談ごとがあった場合にどの程度まで関わってくれるのか？</p> <p>→(施設長回答)相談機関につなぐ役割だと思っています。包括や当法人のパートナーのケアマネにつないだりした事例もある。</p> <p>(包括より)町内のショートステイが縮小し利用しにくい状況にある中で緊急に必要なある利用者さんの受け入れをしていただき助かっています。</p>	<p>1・インターネットの活用で遠方の面会を可能にする。(再挑戦)</p> <p>2・委託主の行政と協力して、オレンジカフェの相談機能を強化。件数を推進会議で報告する。</p> <p>3・ボランティア委員会を立ち上げ、社協にボランティアの仲介や、楽しんで参加できる子供ボランティアの日を行い、今年の倍にする。数字目標3→6名</p>
---	--	---	---	--

<p>D. 地域に向向いて本人の暮らしを支える取組み</p>	<p>1・IT 導入補助金を利用して、うららの ICT 化(電子カルテ化)を図る。</p> <p>2・利用者に合わせた適材適所のケアプラン作り。</p> <p>3・訪問機能を活かすため、訪問手順書を作成し、活用する。</p>	<p>1・記録を電子化したがるが、まだ「記録業務を軽減し、ケアにかかる時間を増やす」という目的が果たせていない。</p> <p>2・2週に1度の会議に、ひもときタイムや当面のニーズでリアルタイムに話し合い、全員でケアプランを作っている。</p> <p>3・必要度の高い利用者から手順書を作り、スタッフ間で情報を共有して生かしている。</p>	<p>・PC 操作の苦手なスタッフが、得意なスタッフに習っていける環境を作れるといい。</p> <p>・ご本人の希望は「家にいたい」であり、家族と本人の希望をバランスよく折り合いをつけながら訪問サービスの充実を図りたい。</p>	<p>1, 通いの利用者の地域の民生委員に、運営推進委員になっていただき、推進会議に出席していただき、利用者本人が住んでいる地域の方を交えた会議にする</p> <p>2, ケア記録を ICT 化(電子カルテ化)して記録業務を軽減し、ケアにかかる時間を増やす。</p>
--------------------------------	--	--	--	---

<p>E. 運営推進会議を活かした取組み</p>	<p>1・運営推進委員会では近況報告だけではなく、テーマを決めて、それについて話し合い、次回にはその実践した結果を報告する。</p> <p>2・運営推進委員のみなさんも参加できるワクワクできる活動。</p>	<p>1・テーマを決めての話し合いはできていない時があり、資料を読み上げるだけになっていたが、資料はなるべく詳しく日ごろの報告ができるように努めた。</p> <p>2・まだまだコロナの制限があり委員の皆さんに参加してもらえないような活動ができなかった。来年度はコロナも落ち着き、行事なども復活できるとおもうので、推進委員にも参加してもらいやすく工夫していきたい。</p>	<p>・資料は事例報告や運営方針など分かりやすく作られている。意見交換も活発に行われていると思います。</p> <p>・事業所評価は何度読んでもわからない！！</p> <p>施設長所感：もともとの指定の事業所評価と地域評価が連動していない点が理解がされていないことや、通常の運営推進会議とこの事業所評価会の違いなど理解されていないのではないかと説明が下手で申し訳ありません。</p>	<p>1・運営推進委員のみなさんが会議だけではなく、参加ができて地域のためになる活動(例 炊き出し訓練)を行う。</p> <p>2・わかりやすい地域評価会にする</p>
--------------------------	---	---	---	--

<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">F. 事業所の防災・災害対策</p>	<p>1・災害 BCP 作りで足りない物品、研修、訓練を補填する。</p> <p>2・自施設の避難訓練は 5 月、10 月に行い、その都度、名簿の作成、非常時物品、非常持ち出し袋の点検を行う。(災害 BCP 委員会)</p>	<p>1・災害 BCP 委員会が中心になって、洪水の際のマニュアル作りや非常食の点検など行った。保管場所は改善されず。困っている。<u>今は取り出しにくいロフトに上がっている。</u></p> <p>2・5月10月に名簿作成の更新は行った。 ・次年度は非常食の白飯をつかった炊き出し訓練を行う予定</p>	<p>・今年は地域の避難訓練がコロナで中止になり参加できなかった。「今年は訓練が町自体が中止にしたのだから仕方ないと思う。」</p> <p>施設長より</p> <p>・4 月の推進会議で非常用バッテリーや非常食・飲料水 3 日間分とその保管場所を見学した。</p> <p>・バッテリーを使ってみる予定ができていない。</p> <p>・避難訓練には消防署と日程を合わせるので地域の方はなかなか参加できない。火災の避難訓練ではなく、避難場所まで徒歩で移動してみる訓練を行ったら参加できるのでは？</p> <p>・防災マニュアルと避難経路や災害 BCP、コロナ BCP をブラッシュアップして、廊下に展示してあるので見て下さい。</p>	<p>1・引き続き、災害 BCP、コロナ BCP をブラッシュアップする。</p> <p>2・非常食の入れ替え時に際し、炊き出し訓練を行い、福寿会の皆さんを招く。(8月)</p> <p>3・避難場所まで徒歩で移動してみる訓練を行い、地域の方にも呼びかけ参加してもらおう。(8月)</p>
---	--	--	---	---